

大田区自立支援協議会だより 第22号

【編集・発行】大田区自立支援協議会

【事務局】大田区立障がい者総合サポートセンター

〔電話〕03-5728-9134 〔FAX〕03-5728-9136



「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して、定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

10月19日に「全体交流会」を開催しました！

10月19日（水曜日）の午前中、さぽーとぴあにて、令和3・4年度「全体交流会」を行いました。自立支援協議会の機能について、今期の相談支援部会のテーマについて部会長からの話の後、2つのテーマをもとにセッションを行いました。

専門部会の垣根を越えて各グループで活発な意見交換が行われました。自立支援協議会の活動について、今、目の前の課題について検討していることが、10年後の未来につながっていくことを確認して終了しました。

全体交流会を終えて

大田区自立支援協議会 名川 勝会長

大田区の自立支援協議会が各部会により精力的に取り組まれていることは感じていました。しかし例えば隣の部会のやっていることをもっと共有できるようになっても良いのではと思いました。それを運営委員会で相談したところ、まずは交流会を行ってみてはということので今回の実施に至ったのですが、いかがでしたでしょうか。

幸い、意見交換の思わぬ成果もあったようなので、それらは今後の議論に活かしていけそうです。ファシリテーション次第ではさらに新しい繋がりを生み出す媒体となるかもしれません。本来の活動に役立たせるひとつのきっかけとして、このような場も使えると良いですね。今回はありがとうございました。

相談支援部会 清水 悠子委員（大田区社会福祉協議会）

相談支援部会に所属し、課題の検討に取り組んできました。交流会では、相談支援部会以外の委員の方と意見交換を行い、想いや意見等新たに知ることが出来た貴重な機会となりました。

「医療職との関わりの中で困ったことや悩んだこと」というテーマで話をする中で、コミュニケーションをとることに難しさを感じたり、また、夜間帯・緊急時の受診、情報の取得と連携の難しさを感じている等様々なお話がありました。

後半では協議会で取り組みたいことについて意見交換を行いました。多くの意見が挙がる中で、「みんながわくわくするような話し合いが出来ると良い」という意見を聞きました。課題を検討する場と考えると、課題の内容によっては重く感じるがありますが、とても明るい視点であるとともに大切なことだと気づきました。様々な役割や経験を持った方たちが集まり、共有し、意見を出し合うことで生まれるアイデアやネットワークが協議会にはあり、より多くの方に知っていただけるよう発信していけると良いと感じました。



防災・あんしん部会 北畠 拓也委員（おおたTSネット）

10月19日に3つの部会合同での交流会にはじめて参加しました。実は私が所属する防災・あんしん部会では、去る9月の部会で“カフェ”形式の座談会を行っていたので、その拡大版というイメージです。普段の議題とは離れ、じっくり語りあうことはとても楽しいことですし、お互いの知らない一面を垣間見ることができます。

3部会合同の交流会では、異なる問題意識や異なる立場、また異なる障がいをお持ちの方とざっくばらんに話し合うことで、同じ大田区に住んでいてもこれほど見たり考えたりしていることに違いがあるのだな、と改めて感じることができました。こうした交流の機会が今後もあれば活動に幅が出るでしょうし、自立支援協議会だけで閉じずに、さらに地域の方へと交流の輪を広げていくことで、より住みやすい地域へとつながるはずです。どのような思いやニーズを持った方がいるかをまず知り、理解することが共生への一歩だと思っております。

初めて行われた全体交流会。ソワソワしているのか会場に早く着いてしまったので側のコンビニで珈琲を飲み時間を潰す。何となく気持ちが落ち着かないまま時間が来たので会場に入る。その時初めてソワソワしていた原因が分かる。「そうか。このことだったのか。」以前防災部会でお世話になっていた方々の顔ぶれを見て原因が判明。そして心が躍る。

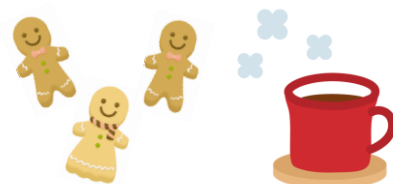
そうこうしていると全体会の開始の時間になり部会長からの説明。二部構成になっており課題をテーマに話しをしてもらおうとのこと。6グループに分かれて話し合うことになった。まずは自己紹介。司会の方が時間を決めて話をする事になったのだが、皆さん盛り上がり自己紹介で殆どの時間を使ってしまった。

今回、地域生活部会から全体会に参加したのは部会長を除くと7名。参加者の意見で全員の方から出ていた言葉。「つながりが大事であるということ」今思い返してもこの場所に参加出来た事への喜び、そして参加された皆様への感謝の気持ちでいっぱいであることには間違いがない。

各グループで2つのテーマについて話をしたが、1つ目のテーマが、「医療職とのやり取りで、困ったこと、悩んだこと」病院に行った際、プライベートの話もヘルパーさんと呼ばれて困った。そして呼ばれたヘルパーさんも困惑しているという話もあった。聴覚障がいの方、知的障がいの方もタブレットがあれば知らない人でも伝えたい事が伝えられる事もあり、障がいも異なっても重なるものがあるということ。

他には医療側の対応が、相談支援専門員とケアマネジャーとでは扱いが全く違うので、「支援者同士協力していきましょうね」との話し合いがあって大変に感じた等の意見をいただいた。私がここでも感じたことは、相互理解含めお互いを知る、お互いを重んじる事が大事ということだ。その中で改めてつながることの大切さを感じる。会の最後に志村部会長からの言葉で納得する。「ネットワークは自分で作らないとだめ」「目に見える事だけが成果ではなく、このように集まり、一つになっていくことが成果物なのではないのか」正にそのとおりである。

人とのつながりを大事にすることですべてがつながり、障害の有無に関わらず手と手を取り合い、お互いを知ることで初めて共生に近づけていくのではないか。私も介護従事者であるが、まずは周りからつながりを持ち、輪を膨らませ円に出来るよう関わっていきたいと思う。



今期初の試みは、ねらいたがわず部会の枠を超えて活発な意見交換の場となり、他部会の活動を知るよい機会になりました。「他の部会の活動を理解したい、課題を共有したい、目の前にいる人のことを知りたい」参加者一人ひとりの熱意を肌で感じとることができました。全体交流会を通じて得た気づきを、各自が専門部会の活動にどうつなげていくのか、また運営会議として、次の本会にどのように発展させていくのかが大事なことだと考えています。様々な障害、異なる立場からのお話を聞くことができ、心豊かな機会になったことを感謝したいと思います。

相談支援部会 神作彩子部会長

協議会って何をするとところ？どんな成果があった？連携って何？私は仕事において、この疑問形で自分に問いかけることを心掛けています。そして、その問いに応えたり、分かりやすく発信する人でありたいと思いますが、まだまだ（もしかしたらずっと）道半ばです。「交流会」においても、なぜ開催するのか？何をするのか？を運営委員とともに考えて考えて開催しました。今回は参加された皆様のおかげをもちまして、疑問形が解消されたような気がします。部を越えて皆さんとお会いして話すこと、つながること、これも成果と実感できた交流会でした。

地域生活部会 伊藤朋春部会長

全体交流会の開催後の気づきを考えた時、大田区の自立支援協議会として、今回の交流会で検討したミクロな課題（町会・地域レベル）である医療的な相談部会の課題、メゾな課題（大田区レベル）である大田区自立支援協議会としての動きの二つの課題を、各委員がいろいろな意見をもってコミュニケーションをとることができたことで、私たちは繋がっているという意識をみなさんが持てる場として良かったのではと思いました。今後も、このような機会を設けられたらと思いました。

防災・あんしん部会 志村陽子部会長

参加されるみなさんに「自立支援協議会とは何ぞや？」との疑問が解消されるべく、「とにかくやってみよう！」と企画された交流会でした。「要綱」や「組織図」など紙に表わされていることがご自身の身に実感されたでしょうか？事務局のみなさんの積極的な参加協力もあり、既にある形にとらわれない意見交換や情報交換、新しい課題発見のできる場になったのではないかと感じました。部会ではより公開的な”カフェ“の場面作りの積み重ねに取り組みます。交流会には、新しい課題に向けて共に学ぶ場面にもなるよう、回を重ねていけることに期待しています。

大田区自立支援協議会 第3回本会開催のお知らせ



◆開催日時 令和5年3月9日（木曜日） 午前10時から午後12時

◆開催場所 大田区立障がい者総合サポートセンターA棟
5階多目的室

（※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から傍聴席は設けず開催いたします）